



◆ SIGGRAPH Asia2026

2026年の12月、SIGGRAPH Asiaはマレーシアのクアラルンプールで第19回目を迎えます。ぜひ皆さんもこのイベントに参加してください。

デジタルアーティスト、テクノロジスト、研究者、そしてクリエイティブなパイオニアの皆様は、エクスペリエンスホールのプログラムを通して、最も革新的な作品を発表していただく機会をご提供します。インタラクティブなインスタレーションの限界に挑戦する方、没入感のあるストーリーを創り出す方、あるいは可能性を再定義する最先端のプロトタイプを開発する方など、どなたでも大歓迎です。

以下のプログラムに作品を提出してください。

体験ホールプログラム - アートギャラリー（応募締切：2026年6月18日）

テーマ：生成的な未来：紡ぎから始まる

マレーシアの伝統的な織物であるバティックにインスピレーションを得た本展では、その起源から生まれた作品、つまり紡績という行為から生まれた作品、概念的、技術的、あるいは文化的素材から創造された作品を集めています。

体験型学習プログラム - 新興技術（提出期限：2026年6月18日）

対面イベントは、オンライン会議では完全には再現できない、自然なつながりを生み出し、共有体験を通してコミュニティを「織り合わせる」役割を果たします。私たちは、現実世界で応用可能な、未来を見据えたイノベーションを紹介する、インタラクティブで体験型のプロトタイプの応募を募集しています。

体験型ホールプログラム - XR（提出期限：2026年6月18日）

SIGGRAPH Asia XR 2026は、持続可能性と社会への影響を重視しています。環境責任、社会的包摂、アクセシビリティ、文化的公平性、そしてAIの倫理的な利用といった課題に真摯に取り組み、没入型技術や生成型技術が社会にどのように貢献し、持続可能な取り組みを支援し、現実世界の課題に対処できるかを示すXR研究および創作作品を募集します。

アジア屈指のCGおよびインタラクティブ技術カンファレンスに参加しよう 6,000人以上の世界中の専門家に向けてあなたの作品を発表しましょう

メディア露出と受賞の可能性

ACM デジタルライブラリに掲載されるクリエイター、研究者、業界リーダーからなるグローバルネットワークを活用しましょう。

SIGGRAPH Asia 2026 でブランドの認知度を高めましょう

SIGGRAPH Asiaに出展して、イノベーションの中心に貴社ブランドを位置づけましょう。カスタマイズされたスポンサーシップにご興味をお持ちですか？詳細については、exhibits_asia@siggraph.orgまでメールでお問い合わせください。

2026年6月30日までに席を確保して、早期割引料金をご利用ください。

#SIGGRAPHAsia | #SIGGRAPHAsia2026

Facebook X インスタグラム LinkedIn YouTube

© SIGGRAPH Asia 2026

提供：ACM シグラフィ

主催者 km_ロゴ

ケルンメッセ Pte Ltd, 152 Beach Road, #24-04 Gateway East, 189721、シンガポール

SIGGRAPH ASIA 2026 について

SIGGRAPH Asia 2026は、クアラルンプールで初めて開催されることで新たな節目を迎え、カンファレンスの規模を拡大し、新たな視点を取り入れることとなります。今回の開催は、新たな繋がりを育み、参加者全員にとってより充実した体験を提供することで、コミュニティを豊かにすることを約束します。国内外のパートナーからの強力なサポートにより、SIGGRAPH Asia 2026は記憶に残る成功のイベントになると確信しています。2026年12月にクアラルンプールでお会いできることを楽しみにしています！

フランク・グアン

SIGGRAPH Asia 2026 会議議長、
シンガポール工科大学、シンガポール



基調講演

マルクス・グロス

魔法を生み出すテクノロジー、
ディズニーリサーチ | スタジオ&チューリッヒ工科大学

マルクス・グロスは、ウォルト・ディズニー・スタジオのチーフサイエンティストであり、チューリッヒ工科大学 (ETH Zürich) のコンピュータサイエンス教授です。彼は、ビジュアルコンピューティング、コンピュータアニメーション、デジタルヒューマン、バーチャルリアリティ、AIの分野における第一人者の一人です。ディズニーでは、スタジオ部門の研究開発ユニットを率いており、彼と彼のチームは、映画制作プロセスに役立つ技術革新の最前線を切り開いています。グロスは500以上の科学論文を発表し、100以上の特許を保有しています。彼の業績は広く認められており、アカデミー賞を2度受賞したほか、ACM SIGGRAPHのステイブ・アンソン・クーンズ賞も受賞しています。グロスは、複数の科学アカデミーおよび映画芸術科学アカデミーの会員です。



クアラルンプールコンベンションセンター



★経済産業大臣賞 株式会社東京サウンド・プロダクション 濱田 豊 / 渡辺 真衣 / 出水 菜々



■映像技術部門 グランプリ 株式会社 NHK テクノロジーズ 吉森 元洋 / 寺延 翼 / 神山 秀 / 高畠 和哉



■音響技術部門 グランプリ 株式会社東京サウンド・プロダクション 濱田 豊 / 渡辺 真衣 / 出水 菜々

◆第30回 JPPA AWARDS 2026<敬称略> 2026年5月29日に発表された。

■経済産業大臣賞

音響技術部門 ステレオミキシング ドキュメンタリー
鹿児島テレビドキュメンタリー「負けたマルカ!!」 株式会社東京サウンド・プロダクション 濱田 豊 / 渡辺 真衣 / 出水 菜々

■映像技術部門 グランプリ

オンライン CG/VFX 人体Ⅲ 第1集 命の源 細胞内ワンダーランド 株式会社 NHK テクノロジーズ 吉森 元洋 / 寺延 翼 / 神山 秀 / 高畠 和哉

■音響技術部門 グランプリ

ステレオミキシング ドキュメンタリー 鹿児島テレビドキュメンタリー「負けたマルカ!!」 株式会社東京サウンド・プロダクション 濱田 豊 / 渡辺 真衣 / 出水 菜々

★映像技術部門★

優秀賞

オフライン 広告 資生堂エリクシール Brand mission Movie「あなたという奇跡」篇 株式会社ピラミッドフィルム PTHREE 長嶋 勝一
オフライン ドラマ/映画 TOKYO タクシー 株式会社松竹映像センター 杉本 博史 / 後藤 あずさ

オフライン ドキュメンタリー/その他 ワイルドライフ 秘密のメッセージ 生きものたちのコミュニケーション 株式会社日テレ・テクニカル・リソース 本間 匡史

オンライン 広告 ニッカ余市・宮城峡 株式会社デジタルエッグ 葛西 史典 / 早川 光治 / THIIHA AUNG

オンライン ドラマ/映画 ファーストキス 1ST KISS 株式会社 TREE Digital Studio TREE VFX

オンライン ドキュメンタリー /VP/ 大型映像 / その他 トヨタ自動車 / IMV Origin 株式会社 TREE Digital Studio TREE VFX
オンライン 情報 / バラエティ The Walls 読売テレビ放送株式会社 西山 貴宣

オンライン CG/VFX 人体Ⅲ 第1集 命の源 細胞内ワンダーランド 株式会社 NHK テクノロジーズ 吉森 元洋 / 寺延 翼 / 神山 秀 / 高畠 和哉

グレーディング 広告 椎名林檎 実験中 ソニーピーシーエル株式会社 藤本 恭有

グレーディング ドラマ映画 グラスハート (1 話) 株式会社 TREE Digital Studio 足立 悠介

グレーディング ドキュメンタリー / 情報 / バラエティ /VP/ 大型映像 / その他 Beginning 関西テレビ放送株式会社 矢野 数馬

★音響技術部門★

優秀賞

ステレオミキシング 広告 河合楽器製作所 / ブランドムービー「あなたへの手紙」篇 株式会社 TREE Digital Studio 久保 和輝
ステレオミキシング ドキュメンタリー 鹿児島テレビドキュメンタリー「負けたマルカ!!」 株式会社東京サウンド・プロダクション 濱田 豊 / 渡辺 真衣 / 出水 菜々

マルチチャンネルミキシング ドラマ/映画 JAZZ NOT ONLY JAZZ 株式会社 WOWOW 蓮尾 美沙希 / 沼田 彰彦
サウンドデザイン ドラマ/映画/大型映像/他 (PV, ゲームプロモを含む) ブチブチ・アニメ「春告げ魚と風来坊 夏草のつりばりうお」株式会社エス・シー・アライアンス 山本 雅之

サウンドデザイン ドキュメンタリー/情報/バラエティ/その他 報道ステーション 広島原爆投下から 80 年 あの日、聞こえた音を再現 株式会社東京サウンド・プロダクション 引地 康文 / 渡辺 聡志

■審査員奨励賞

映像技術部門 オフライン ドキュメンタリー/その他 鹿児島テレビドキュメンタリー「負けたマルカ!!」 鹿児島テレビ放送株式会社 牧 祐樹

音響技術部門 ステレオミキシング ドキュメンタリー ととの足跡 末踏に挑んだ登山家 平出和也 株式会社日テレ・テクニカル・リソース 沖 憲明

新人賞 映像技術部門 オンライン ドキュメンタリー/大型映像/その他 鉄腕アトム宇宙の勇者 株式会社日テレ・テクニカル・リソース 大山 祐太郎

音響技術部門 ステレオミキシング ドラマ/映画 僕達はまだその星の校則を知らない 1 話 株式会社 IMAGICA エンタテインメントメディアサービス 坂本 美月

音響技術部門 ステレオミキシング 情報/バラエティ EIGHT-JAM 株式会社東京サウンド・プロダクション 降幡 光一

映像技術 音響技術 エントリー数 49 作品 エントリー数 34 作品 / 優秀賞 11 作品 優秀賞 5 作品 新人賞 1 作品 新人賞 2 作品 / 審査員特別賞 1 作品 審査員奨励賞 1 作品 計 13 作品 計 8 作品

★学生の部★

最優秀賞

映像技術部門 ナミダヨリ。 東放学園専門学校 芳賀皓太

音響技術部門 LOCA! 大正大学 スタジオ 3 号車

優秀賞

映像技術部門 ドラマ/映画 ナミダヨリ。東放学園専門学校 芳賀皓太

音響技術部門 ドラマ/映画 ナミダヨリ。東放学園専門学校 山村 李緒 / 榎山 瑠夏)

映像技術部門 ドキュメンタリー/その他 フットベ 専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー 高宮 賢人 / 杉山 祐助 / 羽成 碧衣

映像技術部門 CG/アニメーション 夏のおもかげ HAL 大阪 横山 勝基 / 西村 美月 / 村田 咲希

審査員奨励賞 映像技術部門 ドラマ/映画 何様 学校法人美専学園 北海道芸術デザイン専門学校 菅野 鼓太郎 音響技術部門 CG・アニメーション TroubleBusters 日本工学院専門学校 金城 千花 / 藤澤 佳代 / 北澤 優空

映像技術 音響技術 エントリー数 22 作品 / エントリー数 19 作品 最優秀賞 1 作品 / 最優秀賞 1 作品 / 優秀賞 3 作品 優秀賞 1 作品 審査員奨励賞 1 作品 / 審査員奨励賞 1 作品 / 計 6 作品計 3 作品

◆パナソニック コネクト：複数台プロジェクターを活用する際の現場での映像調整・運用ワークフローを改善し「プロジェクションサイネージ」を実現、デジタルサイネージソリューション「AcroSign[®]」新機能を提供開始

パナソニック コネクトグループ（グループ CEO：ケン・セイン、以下、コネクトグループ）は、複数台のプロジェクターによる空間演出や広告における『プロジェクションサイネージ（商標登録出願中）』を効率的に実現する、デジタルサイネージソリューション「AcroSign（R）（アクロサイン）」の新機能を 2026 年 6 月 16 日から提供開始します。

本新機能は、パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社メディアプロセッサ ET-FMP50 シリーズ（以下、FMP）を連携したものです。複数の映像機器をリモートから一括制御・コンテンツ配信できる AcroSign（R）と、プロジェクターの複雑な映像調整を効率化する FMP が連携することで、現地での映像調整、機器監視などの作業負担を軽減し、手軽に複数のプロジェクターを活用した大規模な広告や空間演出を実施することが可能になります。

コネクトグループは、本ソリューションの市場展開によって、お客様の運用ワークフローの改善と映像空間価値向上を両立し、複数のプロジェクターで広告や空間を彩る『プロジェクションサイネージ』を、より幅広いシーンで、より手軽に活用できる環境を実現します。

■背景

近年のデジタルサイネージ国内市場規模は、コロナ禍後の人流回復やインバウンド需要を背景に拡大傾向であり、2024 年の 2,740 億円から、2030 年には 4,609 億円へと拡大すると見込まれています（※）。現在、デジタルサイネージは大型ディスプレイや LED パネルが活用されていますが、駅や公共施設、商業施設などでは、設置場所の重量制限、壁面設置工事の可否といった構造上の問題が導入の障壁となっている場合もあり、施設への施工面の負担を抑えられるプロジェクターの活用ニーズが高まっています。その一方で、複数台のプロジェクターを用いた大規模な投映では、熟練したシステムエンジニアが現地環境に合わせて手作業で映像を調整したり、トラブル時の復旧対応に備えて専門スタッフが常駐する場合が

あり、専門技術を持つスタッフが不足する中で、作業工程の複雑さが課題の一つとなっていました。

■今回の新機能でできること

AcroSign（R）と FMP を連携させることで、複数台のプロジェクターを手軽に導入、広告や空間演出に活用することが可能になります。

1. 現地での映像調整～配信運用負担を軽減

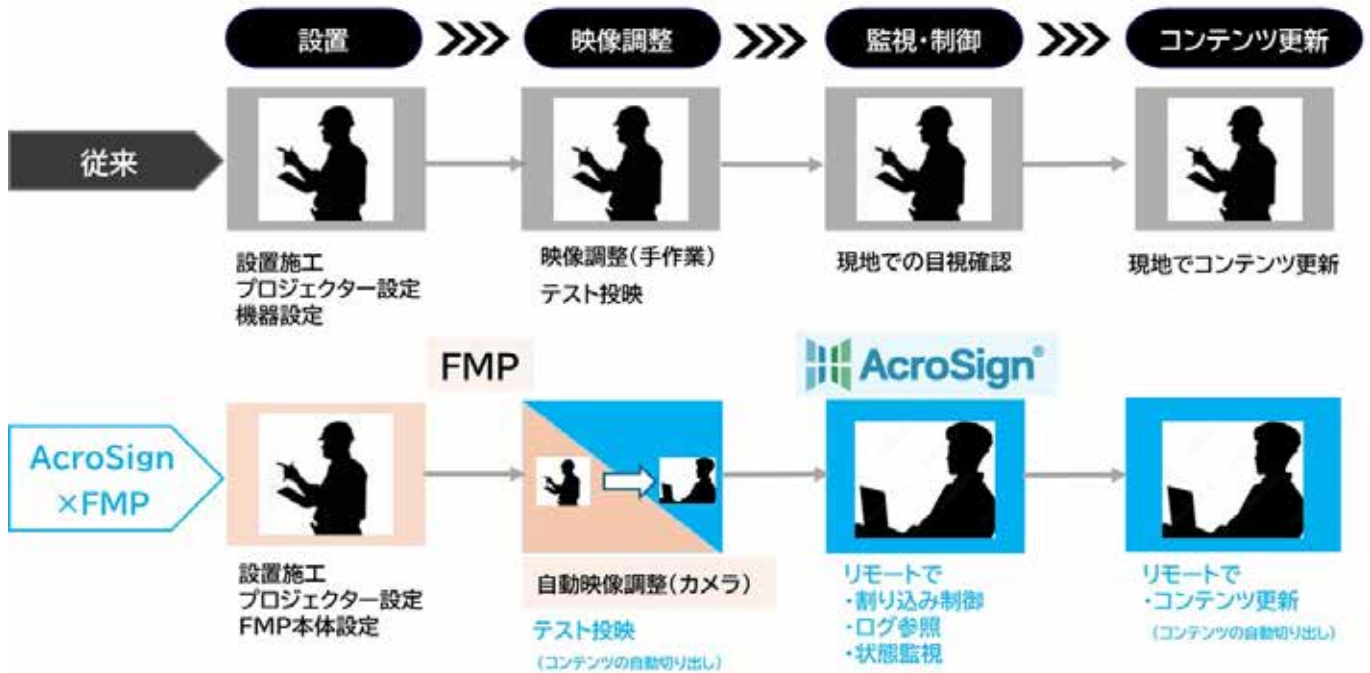
AcroSign（R）は、クラウド経由でコンテンツの登録・配信状態の監視やスケジュール更新などをリモートから制御、運用管理でき、イベント発生に応じて放映中に別のコンテンツを割り込んで放映することも容易に実現できるデジタルサイネージソリューション



です。この AcroSign（R）に、複数台のプロジェクターの高度な映像調整（複数映像の重なり部分の調整や幾何学歪補正など）を自動で行う FMP を連携させることで、映像調整作業をするシステムエンジニアやスタッフの作業負担を軽減します。さらに従来の AcroSign（R）ではできなかった、リモートからのプロジェクター本体の状態監視や制御（電源 ON/OFF、レンズシャッター ON/OFF、HDMI 入力切替など）が可能になるため、現地に専門のスタッフを常駐させる必要がなくなります。これらにより現地での映像調整～配信運用までの一連の運用ワークフローを改善します。

2. コンテンツの切り出しを自動化し、事前の作業負担を軽減

横長のコンテンツを 3 台のプロジェクターで投映する場合、従来の AcroSign（R）では左側・中央・右側といった各プロジェクターの表示範囲に合わせて、事前にコンテンツを分割し、各プロジェクターに接続されたセットトップボックス（STB）ごとに登



現場の映像調整・運用ワークフローの Before・After

録する必要がありました。今回の連携機能によって、FMP が切り出し作業を自動的に行うため、運用担当者はコンテンツをそのまま AcroSign (R) に登録・配信するだけで作業が完了します。これにより事前登録作業の負担軽減、コンテンツ登録ミスの防止に貢献します。

3. シンプルな構成とリモート監視で迅速な保守対応

従来は、プロジェクターやメディアサーバー、そのほかの AV 機器など、複数ベンダーの機器を組み合わせた構成であったため、不具合の際には各機器メーカーに個別に問い合わせ、原因を特定したうえで対処していました。今回、FMP によりシステム構成がシンプルになり、加えて AcroSign (R) の操作画面からプロジェクターと FMP の状態をリモートで監視できるため、パナソニック コネクトが一元的かつ迅速な保守対応を行います。

<デジタルサイネージソリューション「AcroSign (R)」の特長>

デジタルサイネージとは、店舗や公共施設、駅、屋外などに、ディスプレイやプロジェクターなどの映像表示機器を使用して、情報をタイムリーかつ効率的に発信するシステムです。映像をクラウド経由でもリモートから配信できる AcroSign (R) は、情報伝達、販促、広告、空間演出の用途に対応し、映像による空間価値を向上させるソリューションとして、様々な業界や利用シーンで活用されています。

▼デジタルサイネージ「AcroSign (R)」

<https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/digitalsignage/top>

■提供開始時期 / 提供形態

※株式会社富士キメラ総研 「デジタルサイネージ市場総調査 2025」 デジタルサイネージ国内市場規模推移より

【パナソニック コネクトグループについて】

パナソニック コネクトグループはパナソニックグループの B2B ソリューションの中核を担う企業集団です。グローバルで約 29,100 名の従業員を擁し、売上高は 1 兆 3,803 億円 (2025 年度) を計上しています。「現場から 社会を動かし 未来へつなぐ」をパーパス (企業としての存在意義) として掲げ、製造業 100 年の知見とソフトウェアを組み合わせたソリューションや高度に差別化されたハードウェアの提供を通じて、サプライチェーン、公共サービス、生活インフラ、エンターテインメントのお客様をつなぎ、「現場」をイノベーションすることに取り組んでいます。また、人と自然が共存できる豊かな社会・地球の「サステナビリティ」と、一人ひとりが生きがいを感じ、安心安全で幸せに暮らすことができる「ウェルビーイング」の実現を目指しています。

また、「人権の尊重」と「企業競争力の向上」を目的に、DEI (Diversity, Equity & Inclusion) 推進を経営戦略の柱のひとつに位置づけ、多様な価値観を持つ一人ひとりがイキイキと力を発揮できる柔軟性の高い企業文化の改革に取り組んでいます。

▼パナソニック コネクト Newsroom

<https://connect.panasonic.com/jp-ja/newsroom>

▼パナソニック コネクト DEI (Diversity, Equity & Inclusion)

<https://connect.panasonic.com/jp-ja/about/sustainability/dei>

<関連情報>

・パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社

<https://group.connect.panasonic.com/ppnd/jp-ja/>

・パナソニック プロジェクター&ディスプレイ株式会社 FMP50 シリーズ

<https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector/lineup/fmp50>

◆アドビ：AI時代のPDF活用、「紙からPDF、そしてAIへ」

1993年6月15日にAcrobat 1.0が発売され6月15日はPDFの日と制定された。その日アドビはAI時代のPDF活用と題し、製品説明会を開催した。



AIが自社情報を活用できる体制をどう整えるか？



PDFとは？ 情報を出し入れできる「情報のコンテナ」テキスト・画像・データ・電子署名……を一つにまとめて持ち運べる「入れ物」という考え方。

PDFは情報コンテナ



文書画像と正しく作られたPDFの違い

ページを開くと、どちらも同じに見える。違いは“中身”にあります。



見た目は同じでも、AIが活かせるのはテキストを持つPDFの方

RAGとは？

会社の資料やデータを採る「図書館」を作り、その図書館をAIに使わせる仕組み



RAGの土台にあるのが検索インデックス

キーワード検索 + 意味検索の組み合わせで、関連情報を引き出す



紙の書類も、OCRで「検索できるPDF」に

OCR＝紙に書かれた文字を、データとして読み取る技術



紙は必ずOCR。テキスト化するだけで「読める・AIが使える文書」になる

- 01 自社のナレッジこそが差別化要因
入力せずに 社内知識を簡単に活用できる
- 02 生成AIを入れるだけでは足りない
AIが活用できる形に社内の情報を整えておくことが重要
- 03 PDFは編集できないファイルではなく、情報コンテナ
テキスト・画像・メタデータなど、多種な要素を統合できる
- 04 RAGは社内情報をAIに使わせる仕組み
そのためには、キーワード検索と意味検索を組み合わせた検索エンジンが必要
- 05 紙の書類は、まずOCRで「検索できるPDF」に
テキスト化して初めて、読める・AIが使える文書になる

紙を“使える情報”へ スキャン×PDF×AIによる情報活用

PFU エッジプロダクトのプロフェッショナル



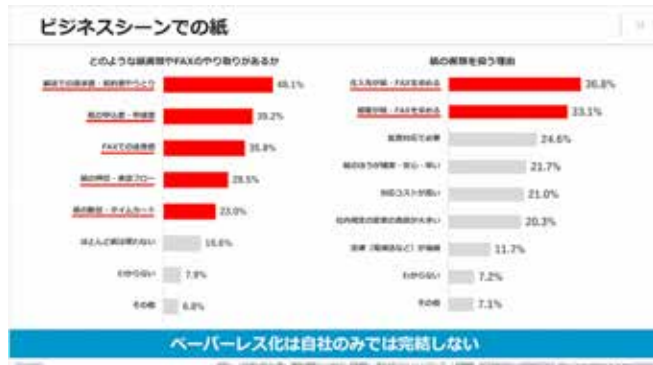
デジタル環境の変化とAIの台頭

ボトルネックは非構造化データと紙

- 企業内データの大半が非構造化データ
そのままでは検索・集計・分析・AI活用ができない
- その多くは、紙
郵送/FAXで届く請求書、申込書、契約書 など
- 紙がAI活用を阻害する要因に
データ活用のボトルネック化



紙を「使えるデータ（構造化データ）」へ変換することが重要



アナログとデジタルの融合、AI 時代の情報活用には必須 PDF でさまざまな情報を 1 ファイルに集約、AI 時代の情報コンテナ



「紙から PDF、そして AI へ」ワークフローデモの紹介

PDF スペースとは



「お寺の DX」acrobat AI アシスタント活用レポート

- 01 PAPER 紙のデジタル化を長年推進
- 02 PDF Adobe Creative Cloud
- 03 AI AI活用を実践

■ 事例①：お盆の棚経ハガキ300枚のデジタル化とAI活用

紙からPDFへの移行で業務改善

BEFORE：紙での管理
毎年お盆に届く300枚の依頼ハガキを紙のまま管理
住職と副住職（私）の間で情報の断絶が発生していた

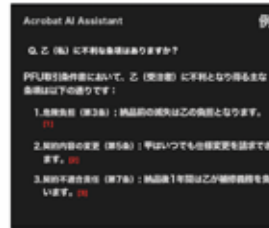
AFTER：ScanSnapによるPDF化
ハガキをScanSnapで一括PDF化
外出先からスマホやiPadで即確認可能になり
情報共有の断絶が解消

今後のAI活用展望

300枚のPDFデータを
自然言語で検索可能な
ワークフローを計画中

AI Assistant
「OO地区でお盆を希望している檀越さんは何人いますか？という質問を待ち受けリストアップしてください」

■ 事例②：PFU調契約書レビュー



「乙（私）に不利な条項はありますか？」

POINT 01
法務の一次スクリーニングを一人で
専門知識が必要な契約書レビューの初期段階
AIアシスタントが候補にサポート

POINT 02
「どこかのページの何条か」引用付きで回答
回答の範囲となる条項へワンクリックでジャンプ
ファクトチェックが容易

POINT 03
アウトプット不要——AI学習に使われない
機密性の高い契約書をアップロードしても
AIの学習データとして二次利用されない安心

これがAcrobat内で完結

■ 事例③：寺報15年分をPDFスペースで活用

15年間、自作してきた寺報
Adobe InDesignを使用し
15年間にわたり自作・発行し続けてきたお寺の会報（寺報）
これまでは「発行して終わり」でした

AIと対話しながら次の企画を練る

「過去に〇〇というテーマで書いた記事はどれ？」
「これまでの傾向から、次号の新しい切り口を提案して、
といった自然言語での相談が可能に

PDFスペース（最大100ファイル）
15年分のバックナンバーPDFを先こと1つのスペースに格納。
膨大な過去データを一元化

眠っていた15年分の情報が
新しいインサイトを生み出す
対話可能なナレッジに変わる



■ 事例④：雑誌「浄土」1000号のデジタルアーカイブ

1935年創刊の90年分の膨大な情報をPDF化

浄土宗関係団体 法然上人顕彰会
1935年から90年発行している雑誌「浄土」

全1000号を
奔磁曜スキャナ
Scansnap SV600でPDFに
デジタルアーカイブとして無償公開

アーカイブ形式PDF/A
デジタルデータの保存に最適

Scansnap SV600



■ 事例⑤：研究員としての論文調査

研究調査における従来のAIの課題

- 引用元の特定コストが膨大
- ハルシネーションを見抜く
ファクトチェックが必須

Acrobat AIアシスタントによる解決

01
複数論文PDFからAIが新規性と重なりを自動整理

02
回答の横に表示された「1」の引用ソースをクリック

03
該当PDFの正確なページ・段落へ瞬時にジャンプ

ファクトチェックに時間を取られない
エビデンスのある要約
研究にフォーカスできる

